

平成29年 11月市長定例記者会見

日 時：平成29年10月31日（火） 午後1時30分～午後2時

場 所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、北日本放送、NHK、チューリップテレビ、射水ケーブルネットワーク、庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、財政課長、地域振興・文化課長、農林水産課長、未来創造課長（司会）

質疑応答の概要

Q 1 . これまでの市政運営を振り返るとともに、三選出馬を表明していることから、今後の市政運営の展望を聞かせてほしい。

予算編成方針について、一般財源の総額が今年度の水準を下回るということだが、具体的な規模を教えてほしい。また、今年度を上回る財源不足が生じる懸念があるということだが、不足分を充足する手段を教えてほしい。

A 1 . この4年の任期を振り返ると、大きな出来事として、北陸新幹線の開業があった。これにより北陸・富山の全国的な認知度が大きく変わったと考えている。そのようなことを追い風にしながら企業の誘致等を進め、大規模コールセンターの創業や会員制倉庫型商業施設のオープンなどが実現できた。一番の大きな出来事では、天皇皇后両陛下を本市にお迎えしての全国豊かな海づくり大会の開催があった。こうした大きな事業をこの地で開催できたことを大変光栄に感じる。無事開催できたことについては多くの市民や関係のみなさんのご協力をいただいた。改めて感謝を申し上げたい。

市政運営については、財政的にも決して楽ではない厳しい状況であり、特に合併市の特例措置が縮減していく段階に差し掛かっている。行財政改革については不断の取組みが求められている中での市政運営であった。その中で大きな事業として、昨年10月に新庁舎を開庁できた。防災対策拠点としての機能を入れながら、コンパクトで機能的な庁舎として設計した。市民サービスの機能の集約化を図り、サービスの向上にもつなげることができ、行財政改革にも資する庁舎の整備になったと考えている。その他にも、病院や小中学校の耐震化など災害に強いまちづくり

に向けての整備もある程度進めることができた。また、平成27年度に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に沿った取組みも進めてきた。まだまだ道半ばという状況ではあるが、ここ2年連続して射水市における出生数、合計特殊出生率の数字も上昇してきている。また、県外からの転入者が転出者を上回るといった成果も出てきている。この4年間については、市議会からご指導を賜り、連携し、また多くの市民のみなさんのご協力をいただきながら市政の課題に向き合い、解決に向けて取組みを進めてくることができた。

市民のみなさんのご支援をいただき、次の任期を担うのであれば、地方創生の取組み、道半ばの状況のものをしっかりと進めていく。合併市の特例措置が平成32年度いっぱいでは受けられなくなり財源の確保が難しくなることが考えられるが更なる事業の選択と集中、不断の行財政改革を進めるとともに、民間活力の活用によって市政や市民サービスの向上につなげ、多くの方に選ばれるまちの実現に向け、しっかり取り組んでいきたい。

平成30年度予算編成方針について、いろいろな事業を進めていく中で、国・県からの補助金や合併特例債なども含めていくので、当初予算一般会計の規模としては、概ね400億弱を見込んでいる。財源不足については、現在の試算では約6.2億円を見込んでいる。財源不足の解消法としては、まずは引き続き財源確保に全力で取組み、総合計画の中・後期実施計画、中長期財政計画の整合性を見極めながら、歳出全般に対して更なる選択と集中を徹底していく必要がある。こうした中で財源不足の圧縮に努めていきたい。また、行財政改革についても第3次射水市行財政改革集中改革プランに掲げる取組みや公共施設等総合管理計画に基づく公共施設のマネジメントを進めながら持続可能な財政構造の構築を目指していかなければならない。厳しい予算編成が予想されるが、市民の福祉の向上や市政の進展に向け、よりよい編成を進めていきたい。(市長)